

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170502975), 法人名 (医療法人社団 NYC), 事業所名 (グループホーム せせらぎ平岸 2階), 所在地 (札幌市豊平区平岸8条13丁目1-53), 自己評価作成日 (令和2年3月3日), 評価結果市町村受理日 (令和2年7月20日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 column: 基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年7月6日 (令和元年度分))

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔と思いやりを忘れず、利用者様の尊厳を大切に、個々の生活のペースに合わせたケアを目指し、利用者様一人一人が自分の役割を持って自分らしく生活できる喜びを実感できるよう支援に努めている。また、職員の年齢層も幅広く、管理者が一階と二階に一人ずつおり、しっかりと協力体制が取れるように連携し、活気のある職場である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームせせらぎ平岸は平成30年10月に医療法人社団NYCに運営が移行し2年目を迎えている。ケアサービスの拠り所となる理念は継承され、管理者及び介護職員の異動も無く、一人ひとりの職員の力が、利用者の安心できる暮らしを支えている2ユニットの事業所である。近隣には系列のグループホームと看護小規模ホームがあり、3事業所合同で開催される運営推進会議を始め、職員研修、毎年恒例のせせらぎ夏祭り、災害時支援などで相互に連携し補完体制が築かれている。管理者2名はマネジメントやフットワーク力を運営に生かし、職員との情報共有や連携を密にして、全体及び個別支援の充実を努めている。理念と合わせ、ケアのコンセプトとして、利用者一人ひとりが自分らしい生き方や生活の仕方、利用者の意思の尊重を重視したサービスを心がけ、入居しても自宅に近い環境になる様に配慮した支援に取り組んでいる。具体的には、団体行動が苦手な利用者には無理強いせず、居室で自由に趣味の読書や野球観戦に興じてもらい、外出や入浴も利用者の生活背景を重んじた意向を第一に柔軟に対応している。その人らしい当たり前の生活の継続と、利用者の出来る力に着目した、役割や生きがいの持てる暮らしの提供に、全職員が工夫し協力し合いながら実現に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を持ち、家庭的な雰囲気を大事に、利用者様が理念に基づきその人らしく過ごせるように努めている。	事業所独自の理念を標榜し、常に目に届くところに掲示する事で、理念を実践するケアサービスを心がけ、職員全体のものになる様に努めている。毎月目標掲げなど、更なる理念の具現化に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	できる限り町内会の行事に参加し、近隣の方々との顔つなぎや積極的に挨拶や会話をするなどの交流を図れるように努めている。	町内会の花植え活動には職員が協力し、利用者も夏祭りや子供花火大会への参加、神社祭では子供神輿が立ち寄るなど、良好な関係を築いている。法人主催のお茶会は休止しているが、せせらぎ祭りには地域の方も集い交流する夏の祭典となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人での無料のお茶会などの開催を計画し、地域の人々に向けて発信する場を設けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議にて職員、ご家族、町内会代表、地域包括などの参加があり、現状の報告をし、意見交換などを行いサービス向上に努めている。	運営推進会議は、各関係者の参加を得て、系列の3事業所合同で定期的に開催している。事業所側の取り組み状況、地域や行政との連携について話し合い、評価、提案、報告を頂くなど、広く意見が出易い会議になる様に努めている。	家族との関わりが薄い利用者が多いとの事情も有るが、後見人の方や新たな入居者家族等に、会議の意味や役割を伝えながら、積極的な参加要請を促す事を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や勉強会への外部講師の依頼などを行い、取り組んでいる。	運営推進会議では地域包括職員と情報を共有し、管理者は昨年、区の管理者会議の役員を担うなど、常に行政担当者と協働関係築いている。実地指導の際には、指導や提案を受け連携を図り、事業所の質の確保に繋げている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束および玄関の施錠等は行っていない。身体拘束防止委員会やマニュアルを設置し、定期的に勉強会や伝達研修を行っている。	指針やマニュアルを整備し、身体拘束防止委員会の定期開催、法人による合同研修会内で身体拘束について学ぶ機会を得ている。更に、6か月毎に虐待チェックリストや自己点検シートを活用したケアの振り返りや身体拘束の弊害について、職員は理解を深め、共通認識に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や事業所の勉強会にて議題にしたり、カンファレンスや委員会で常に注意を払い、話し合いを行っている。			

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	後見人制度を利用している方もいる。また、講習などで学ぶ機会もあり、伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前やその都度、不安や疑問を尋ね、必要であれば十分な説明を行う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には何気ない雑談の中からくみ取ったり、ケアプラン更新時にも意見等を尋ね、反映に努めている。	発言が容易な利用者及び訪問時・電話連絡時の家族からは、運営についての要望は殆どなく、職員は出来るだけ思いを引き出せる様に馴染みの関係づくりに努めている。利用者担当職員が、毎月手紙を書き、健康状態や生活の様子を家族に伝えている。新型コロナウイルス感染症予防対策で面会自粛時には、ラインで利用者の様子を伝え、家族の安心に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、統括ホーム長による面談を行い、反映に努めている。	日常の業務の中や毎月の各会議、個人面談などで、職員の意見を汲み取り、職員主体のケアの実践や業務改善に生かしている。シフト調整や外部研修参加の確保、備品調達など、様々な職員の要望や提案を受け止め、労働環境の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に管理者が、職員の話に耳を傾けられる職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	二か月に一度、全事業所合同にて勉強会を開催し、意見交換などを行っている。また、希望や推薦があれば外部研修などの機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の実施や外部研修などで同業者との交流する機会を設け、取り組みに努めている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人、ご家族様と面談、見学などしていただき、入居前の密な時間を作るようにし、安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に見学・面談の時間を設けている。入居後は状況の報告などをこまめに行い、ご家族のご要望を伝えやすいようこちらからもアプローチし、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご要望をしっかりと傾聴し、できることとできないことはお伝えしながら、時間をかけてお話しし、ご家族が求めているサービスの選択ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員も同じメニューで一緒に食事をしたり、できることはお手伝いのお願いをしたり、できないことはさりげなくサポートするなどし、一方的にならないよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活の様子を毎月のお手紙にて報告し、来設時には日々の様子をお伝えするなどしている。何かあればこちらからご相談するなどし、逆にこちらからご協力いただくこともある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様や知人が気軽に来設できることや、外出・外泊によって関係が継続できるように努めている。また、毎月のお便りなどで行事の参加等、積極的にお誘いしている。	自宅帰省や行き付けの美容院訪問、馴染みの店での買い物や外食、正月外泊など、これまで培った関係継続を、職員、家族、友人の支援の下に実現している。困難な場合も、利用者の回想話を傾聴し懐かしい時代を振り返っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	昼食後にはレクや皆さんで遊びなどをして会話のきっかけの一助になるような場面づくりを提供できるよう心掛けている。		



自 己 評	外 部 評	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要や要望に応じて、いつでも対応や相談を受けられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な利用者様には本人の意見・意向を聞き、把握に努めている。重度化されてる利用者様については、ご家族様との話し合いなどで、できるだけ本人本位になるように努めている。	発言の容易な利用者が多く、会話を大切に話題を広げながら希望や意向を把握している。また、本人の日々の表情や仕草で思いを汲み取り、職員間で情報を共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に入居前の情報提供やご家族・入所前施設などのフェイスシートの記入や、直接お話を聞き、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時の申し送りや、毎月のカンファレンスにて検討し、把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子をカンファレンスなどで話し合い、検討、事故報告や日々の申し送りなどからもケアプランにつなげ反映している。	介護計画の見直しは4か月毎に行われている。利用者の担当職員がモニタリングを行い、計画作成者と共に課題を抽出し、カンファレンスで話し合い検討され、現状に即した計画を作成している。インシデント、アクシデントも考慮し、支援に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやカンファレンスにて情報を共有し、介護支援専門員、計画作成者、管理者のもと、作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の様子や訴え・要望に対して、ひとりひとりできる限り柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や町内行事を通じ、地域とのかわりを持てる場を提供したり、協力を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望を第一にし、希望があればかかりつけ医以外にも紹介などを行っている。	入居時に協力医療機関の説明を行い、納得頂き9割の利用者が契約し、月2回の往診を受けている。かかりつけ医や他科の通院介助は、基本家族対応となっている。週1回訪問の看護師は、24時間対応で、日常の健康管理、医療上の助言、指導に当たっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の看護師出勤により報告・相談など連携をとっている。また、かかりつけ医により月2回の往診を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	かかりつけの病院と関係を密にし、常に連携・治療・早期退院に向け、対応に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の体調・状態を考え、ご家族様との話し合いを通じ、コミュニケーションを図れるよう努めている。必要に応じて看取りの同意書交付も行う。	「重度化した場合の対応に係る指針」を入居時に説明し同意を得ている。利用者の状態変化に応じて再度、家族、主治医と相談の上、「看取りに関する指針」を説明し同意書を作成している。終末期支援では、主治医から重度者のケアや心構えを学び、関係者間で連携を密に取り、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアル・事故対策委員会の設置、勉強会も行われているが、まだまだ実践力として身につけていないのが現状である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や業者立ち合いのもと、避難訓練を行っている。町内会や近隣との連携と協力の依頼も行っている。	今年度は自主訓練で、昼想定のみ火災避難訓練と昼想定のみ地震災害訓練を実施しているが、地域住民の参加協力には至っていない。災害時の備蓄品の確保と近隣の系列事業所との協力体制は構築されている。	夜間想定のみ火災避難訓練を実施すると共に、当地域がどの程度の災害地区に当たるかを確認し、水害を始め様々な自然災害や停電など、予期せぬ事態を想定した訓練の実施を期待すると共に、災害時に於ける地域協力者確保に努める事が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者様に合わせ、自尊心を損ねないような声掛けや対応、プライバシーの尊重に努めている。	新人研修時に、理念やケアサービスの基本を学んでいる。申し送りやカンファレンスでは、事例検討しながら、職員同士で確認し合う事を心がけ、人格を損ねないケアの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と職員との信頼関係の構築をし、いつでも希望や思いを言いやすい環境づくりや自己決定の促しを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	原則的に利用者様のペースに合わせられるように心がけているが、業務の状況によっては職員の都合を優先してしまうこともみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な利用者様には服を選んだり、化粧をするなど身だしなみに気を使えるよう、支援に努めている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントやお誕生日にはそれぞれの好みを聞き、メニューに取り入れている。食事の準備や片づけについては個々のレベルや体調に合わせて一緒にお手伝いをお願いしている。	朝食は配食を利用しているが、昼食・夕食は職員の手作り料理で食卓を彩っている。特に行事食や誕生日には利用者の希望を取り入れ、誕生日ケーキも手作りで用意するなど、利用者の好みや食習慣、食事準備に関わる能力などに応じ、メニューの工夫や家事参加の働きかけを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた好みや形態、量の調節、ゼリーやとろみ、カロリー食を使用し、水分量の確保等にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、促し、介助等行い口腔ケアを実施、また、訪問歯科を利用している方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、個々のパターンや間隔を把握、チェックし、その人に合ったさりげない声掛けの工夫など、状況に応じた支援に努めている。	チェック表を活用し、一人ひとりの排泄の間隔や習慣の把握に努め、トイレでの排泄を基本に支援している。夜間のポータブルトイレ使用を始め、下着、リハビリパンツ、パット等の使用も利用者の生活リズムに沿って、使用する根拠を検討し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事提供の工夫や保温、腹部マッサージなどを行っている。また、週一度の訪問看護師や主治医に相談等を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば都度対応し、無理強いせず、時間の工夫や声掛けの工夫を行っている。異性介助に強く拒否がある方もいるので、希望によっては同性介助を行い、対応している。	週2～3回が目安だが、毎日入浴出来る体制である。湯加減の調整や要望に応じて湯を入れ替えたり、お風呂好きにはゆっくりと寛いでもらうなど、これまでの生活習慣や希望に応じて工夫している。羞恥心に配慮した同性介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の健康状態にあわせ、なるべく日中にはホールにて過ごしていただき、生活のリズムにメリハリをつけていただけるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や訪問看護師と連携を取り、服薬の確認や管理を徹底し、症状や状態の変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の軽作業、お手伝い、レクなどで生活に活気を持てるように支援している。また、利用者同士での談笑やコミュニケーションなどで気分転換を図っている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば近隣のコンビニなどへ自由に買い物に行ったり、散歩に行ったり、外出支援できる環境づくりに努めている。また、ご家族と定期的に外出される方もいる。	町内の子供花火大会や夏祭り、法人主催のお祭りに出かけている。日常の中で散歩や買い物にも出かけているが、全体的に個別の外出要望が減少している。家族の協力で、正月の外泊、外食、買い物、受診などで戸外に出る機会を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々により所持している方もいるが、本人所持することが難しいケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度で対応、支援を行い、ご家族の協力もいただき、対応している。また、お手紙や絵葉書などを製作するレクも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の配慮や利用者様の訴えにて、温度調節を行っている。壁や窓、玄関などにレクの作品や季節の展示などをしたり、今の大きな窓からは四季を感じられるように配置している。	各ユニットには大きな窓が設置され、採光も風通しも良く、明るく開放的である。窓からの景色も四季折々に変化して季節を感じさせてくれる。リビングには利用者で作った季節の飾りが施され、2階ユニットには、今日のメニュー表を掲示しており、話題のきっかけとなっている。共有空間は、温度、湿度、臭気に配慮し、清掃に努め、快適に過ごせる環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや家具の位置を工夫したり、座席の配慮をし、トラブルがあった時には即座に席替えなどの対処を行い、快適な空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ馴染みの物を持参していただくよう配慮し、居心地よく過ごしていただけるよう支援に努めている。	これまでの生活環境を変えない様に、馴染みの家具やベット、冷蔵庫、テレビなどを揃え、大切な仏壇や家族写真、趣味の飾り品に囲まれ、レイアウトにも気を配り、安らげる空間となっている。編み物や好きな球団の野球観戦、新聞・雑誌をじっくり愛読するなど、独りの時間を満喫している利用者も多くなる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人一人の個々の見極め、支援を行い混乱や不穏なく安心して楽しく生活できるよう支援している。		